

会 議 録

会 議 名	第 3 回橋本創生総合戦略審議会			
日 時	平成 27 年 8 月 21 日（金）午後 1 時 30 分～			
場 所	橋本市議会委員会室 3 階			
出 席 者	委 員	濱田 學昭 竹部 洋一朗 森川 嘉人 奈良 敦子 小林 大将 森川 嘉久	佐藤 周 平家 利也 堀川 憲一 曾和 満記 古田 雅昭 小林 俊治	前田 陽一郎 坂口 和彦 村本 秀子 井上 典至 野田 幸哉
				【出席委員：17 名】
公開状況	公 開			
傍 聴 者	0 名			
次 第	1. 開会 2. 議事 (1) 橋本市創生総合戦略案について (2) 市民意識調査等の結果報告について (3) 意見交換 (4) その他 3. 閉会			
資 料	資 料 1：橋本創生総合戦略案 資 料 2：橋本創生総合戦略審議会、議会懇談会での意見反映について 資 料 3：市民意識調査等報告書（調査結果） 資 料 4：市民意識調査等報告書（参考結果）			

1. 開会

- ・事務局より開会の挨拶、資料確認を行う。
- ・事務局より総合戦略審議会の開催にあたり、委員数 20 名のうち 17 名と過半数の出席により本会議が成立していることを報告する。

2. 議事

(会 長) 本日は、第 3 回目の会議となります。当初は全体として 4 回を予定しておりましたが、後ほど事務局から話があるが、回数を増やし 5 回の開催とさせていただきたい。

本日の第 3 回では、これまで 1、2 回の審議の内容を発展させるような意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

今回の議事については非公開とする案件を含まないために公開とさせていただきます。よろしいか。

<「異議なし」の声あり>

(会 長) 異議なしということですので、公開とさせていただきます。本日の傍聴人につきまして事務局から報告願ひます。

- ・事務局より傍聴者がいない旨を報告する。
- ・会長が会議録の署名委員に平家委員と村本委員を指名する。

(1) 橋本創生総合戦略案について

【資料① 橋本創生総合戦略案】

【資料② 橋本創生総合戦略審議会、議会懇談会での意見反映について】

- ・事務局より審議会の開催について、全 4 回の予定であった回数を 5 回に変更したい旨及び、今後のスケジュールについて説明する。
- ・事務局が資料に基づき説明する。

(会 長) ただいま事務局から説明があつたが、意見等はないか。

(委 員) 7 ページの農林業の振興について、魅力のある農業振興の中で特産品と書いているが、具体的に書けるのであれば、プレミアム和歌山でも審査員特別賞であつたはたごんぼや柿など具体的に書く方がインパクトがあると思う。山菜は特産物であり、林の中のイメージであるため、農林業の振興になるのではと考えている。

(会 長) 他に意見が無いようなので、意見があれば、後ほど意見交換会

で意見をいただければと思います。次に、市民意識調査等の結果報告に移りたいと思います。

(2)市民意識調査等の結果報告について

【資料③ 市民意識調査等報告書・調査結果】

【資料④ 市民意識調査等報告書・参考資料】

・事務局が資料に基づき説明する。

(会 長) ただいま事務局から説明があったが、意見等はないか。

(委 員) 子どもの人数について、2人ほしいとの意見が多いので、産んでもらえるような施策、子どもを育てやすいような施策を考えていただけたらと思います。

(委 員) 都市部では待機児童について問題となっていますが、橋本市の状況はどのようになっているのか。

(事務局) 年度当初では、待機児童はいません。ただし年度の途中からの入園については、行きたい場所の定員の問題もあるため待機児童は出ている。

(会 長) 年度当初であれば、行きたい所に全ての人が行けるか。

(事務局) 年度当初であっても全ての人が行きたい所に行ける状態ではない。事前に理解を得られる範囲で調整していますが、転入された方で年度途中での入園となると、希望する園の保育士の数が不足している場合は、保育士の確保のため、若干の待機はありますが、できるだけ希望する場所へ行けるよう努力をしています。

(委 員) 0歳児の待機状況、受け入れ体制はどのようになっていますか。

(事務局) 具体的な資料を持ち合わせていませんが、待機児童が発生しないように計画はしています。市では幼保一元化ということで、こども園化を進めており、0歳児の受け入れ可能人数は増えています。

(委 員) 仕事の状況などにより短時間保育から長時間保育に変更するのは可能と入園する前に聞いていたが、実際は定員がいっぱいで、短時間保育のまま、預かり保育に移るといったようなことが実情

である。大きくなってからの移るのは難しいので、しかたがないので空きのある園に途中から入らざるを得ないと聞いたことがあるが、現在は改善されていますか。

(会 長) 受け入れ側の仕組みとしての余裕のあるセーフティーネットワークができていないのが現状であるが、大都市に比べると橋本市はできている方だと思います。

(委 員) 預かり保育から長時間時に移りたい人は待っている状況でもあるので、待機児童にはいるのではないか。

(副会長) 地元で仕事をどうつくるのか、若い人が帰ってくる環境をつくるのが重要だと思いますが、高校生に対するアンケート調査結果を見ると、就職希望の3割のなかで農林水産業を見ると、13人しかいない。一方、全国的には就業割合の7割がサービス業であるが、橋本市の高校生の意向はクリエイティブな職業を求める生徒が最も多く、ギャップがある。こういったギャップを埋め、若い人達が戻ってこれるような努力をしないといけない。

また、就業については大学生に対して同じような内容のアンケート実施できれば、良いと思います。

(会 長) 休憩後、意見交換に移りたいと思います。

【休憩】

(3)意見交換

(会 長) 審議会を再開し、意見交換に移りたいと思います。進め方は、1回、2回の審議会で見解を出されていることもありますので、今回は、会長、副会長が先に少し話をした後意見を出したいと思います。

(副会長) いくつか気になっているところのお話しをさせていただきます。全般的に会を重ねる毎に議論が進んできていると思います。

一方、日本全国で同じような事で悩んでいることが沢山ありますので仕方はないが本戦略には、橋本の固有名詞がほとんど出てこないで、インパクトに欠ける。橋本らしい、橋本の固有名詞を出していけばもっと共感していただけるのではないかと全般的な

感想である。

その上で、大切なのは産業の振興であって、職をつくる材料が不足しているように思う。何が不足しているのか考えると今後、高齢者が増えてきますので高齢者向けの産業を誘致するなど考えればいいのではないか。特に和歌山県内で考えると南と北の紀の川沿いの地域を比較すると、橋本市の優位性として温暖な季候と大阪や奈良などの都心部に近いことや京奈和道などの交通の利便性が良いことで都心部から1時間から1時間30分で来られることがある。また、都心部と比べると土地代が安く自然が豊かなことなどの優位性があると感じます。

それから、紀の川沿いのサイクリングロードについて、大阪からの利用者などで有名になっており、利用者は何を求めて来るのかと言うと、サイクリングや健康づくり、食べ物などトータルで楽しんでいる。そのような環境は橋本市周辺には沢山あり、どのように活用するか橋本市だけではなく立体的に考える必要がある。例えば、高野山に行く場合でも橋本市だけではなく高野町、九度山、五條など周辺地域と連携した広域的な政策を考え、定期的な連絡協議の場を設けるなど記載できればいいのではないかと思う。

グリーンツーリズムについて、和歌山大学の観光学部で農業ビジネスと観光をどうやって結びつけていくのかなど、目玉となる研究を行っているようですので、このような事とも記載できるのであれば、インパクトを出せるのではないか。

次に、暮らしやすいまちづくりとして、Uターン、Iターン、Jターンなど高齢者が住みやすい環境づくりなどの材料が書き込めたらいいのではないか。最終的には、国全体がこのようなことを考え、使えるような材料を橋本市が選ぶといった事が安直なやり方ではあるが、もう一步ブレイクスルーできればと思います。

(会 長) 具体的な話とは少し違うが委員の皆様においては、他の委員になられている方もいらっしゃると思いますが、このような審議会の会長や副会長は大学の先生などが多いです。主に議事及び進捗し報告書をまとめるのをお手伝いさせていただくといったようになりますが、皆様方は先生方は何を考えているのかと思っておられる方がいるかもわかりません。単に議事、進捗を行い報告書をまとめることお手伝いするといったことを引き受けているわけではございませんが、まず、地域のことは地域の皆様方が決定し、自己責任で行う。ただし、橋本創生会議だけの問題ではなく非常に心配していることもあります。2060年の人口について45年先に

このようになりますと書いていますが、本当にこれでよいのか、先程の固有名詞があまり出てこないなどありましたが逆に言うと、他の部分でもこの中に書かれていることの大部分を同じように書いても通用するのではないか。そのことは何を意味するのか、他のところも同じようなことを考えている中、どのようにして生きぬいていけるのかと言うことが、しっかり考えているとは言い難い。橋本市のことについて考えた時にどのようにして成長してきたか、あの強みをもう一度取り戻そうよと言うような議論がされていないことが残念に思っています。

この地域を遡ると土佐日記などでも出てくるように、平安時代から、また近年では林間田園都市などの住宅開発など、外との繋がりによって橋本は栄えてきたわけで、とても大きな歴史のストックはあるのだが、残念なことに忘れ去られて活用できていない状況である。今の橋本には、将来を引っ張っていく尖ったものがなく、本当であれば林間田園都市がもっと育っていけば良いのだが駅前の状況からすると現実には厳しく思われる。販路の拡大については良いと思うが、例えば伊勢の赤福や柿の葉寿司などは、今やどこに行っても食べられる状況であり、販路は拡大したけれど、それらを食べに橋本市に来ようとは思わない。つまりこのことは産業を育てる上では、その地域に特産品を目当てに人が集まることと同じ歩調ではない。それでは、どのようにしたら人が集まるのかと言うと、逆の話でヨーロッパのある小さなまちで、ここでしか食べられない、他には売らないなど販路を限定する戦略である。どちらも成り立つ話だが、地域振興という視点で考えるのであれば、もっと地域にこだわって組み立てないといけない。その時に経済の3要素である個人消費、民間投資、公共投資について橋本市としてどのようにして成り立つのか仕組みを考え、特に個人消費を引き上げていく必要があるので、将来引っ張って行けるような仕組みを地方創生の中で、皆様方に意見を出していただきたいと思っております。

(会 長) クラウドファンディングというのは、事業を行うには、投資などの費用を賄えない問題がある。また、補助金でもらってやっていくこともあるが、金額が大きくなり、自由に使えない問題もあるので、地域によっては補助金を貰いたくないところも最近増えてきている。補助金に全面的に頼ってしまうと、色々と限られてきますので、自分たちでお金を集めやっというの、クラウドファンディングである。

例えば、廃業した昔あった酒蔵を蘇らすことについて、賛同者を集め、資金を集め製造から販売を行い企業として成り立つようにすることである。橋本市を具体的にどのように良くするのか議論すると、例えば清水地域の古民家の活用などもあるのではないかと。ヨーロッパのサイクリングロードでは、自転車のパーツショップやカフェなど自転車の道の駅みたいな施設があり、働く場の創出にもつながるなど、事業として広がりがあるようなことを育てていくといった大きな方向として良いのではないのでしょうか。

(委員) クラウドファンディングについてですが、現在力を入れ始めているところである。ただし、進めるにあたって 100 万円程度の自己資金が必要となるので、事業を始めるにあたってのスタートアップのための補助金をつくっていただければ、創業支援にもなるのではないかと。

もうひとつは広域観光について、橋本観光戦略協議会で橋本市が中心となって社会経済研究所も加わり議論し、広域的に検討しています。これについては 9 市と 10 商工会及び会議所と連携できていければと思っています。これらが成り立っていれば、紀南地域に対して連携した勉強会を行っていただける。特に進めているのが DMO を設立し、その中でやっていくこととし、創生の補助金など活用できればと思っています。

(会長) 副会長の話の中で、地元高校生が農業に対して展望が持てないとありましたが、観光プロモーション、誘致も大切だが農家も一緒になって、観光について取り組んでいかないといけないと思います。ヨーロッパでは B&B のように自家製の野菜を提供するなどし、観光客との直接的なふれ合う事で何を求めているのか分かる。そうしないとレベルの高い観光にならない。大事なものは観光とは「おもてなし」である。ところが、和歌山は、一次産業が多い地域で三次産業と違って対人的な事に対して積極的に行こうとしないので弱い。京都であれば三次産業が多いので、子どもでも「よくいらっしゃいました。」と挨拶をしている。このような事が大切である。兵庫県の丹波篠山に視察に行ったときも観光業に携わっていないおばあさんがよくいらっしゃいましたと挨拶されました。このようなレベルになるよう意識改革が大切である。

(委員) 南海電車を利用する外国人について、案内しなくても橋本駅で乗り換え高野山行きの電車に乗っておられる光景を見ました。こ

のような外国の方々に橋本駅でうまく市や地場産品等をPRできないか。それから預かり保育から年長保育については、現在は、うまくいっているとは思いますが、もう一度確認をお願いしたい。次に橋本市の森林率が全域で57%と資料にあるが、本市の農産物の生産について下がってきているのではないのか、また品質に関しても同じような良い物が収穫できているのか。ある講演で聞いたのだが、森林率が70%を割ると農作物の生産量や品質が下がったりすると聞いたが、橋本市の特性として企業誘致を推進するのか農業を推進していくのかはっきりとした方が良いのではないか。

(事務局) 0歳児の待機児童の状況について、現時点では年度途中の待機児童は3名おられます。それから短時間保育から仕事等の状況による保育時間の変更については、待っていただいている状況である。今後は不公平感がないよう制度の見直しも含め検討していきます。次に企業誘致や農林業の取り組みについては、雇用の創出や定住促進、販路の開拓等、企業誘致、農林業の推進どちらも大切なことですので進めて行きます。農業の生産量や品質については農業従事者の高齢化が進み農業者が減ってきている中、生産量も下がってきていますが、品質については下がっていないと思います。

(委員) 森林率が上昇することによる農業の生産性の減少については、先程から出ている話は、大きな視点でとらえたもので、この地域の森林が10%減ったからと言って農業の生産性に影響があるとは思えない。生産量の減少は、生産面積の減少や生産人口の減少によるものである。例えばカリフォルニアのオレンジカウンティという地域は農業が盛んな地域でありました。その場所で住宅地の開発が行われたことによって生活用水に川の水を利用し、十分な農業用水が確保できなど極端な開発が行われたことによる農業の生産性が下がった事例があります。

(委員) 何をとり、とらないではなく、産業のレベルアップとこれから先どんな職業を発展させていけば就職率が上がり経済効果が上がるということを考え、どのような支援が必要であるか、これからの方向性として何をどうしていくのか議論していくことが大切である。何よりも経済が安定しないと他のことに着手できないことから今いろいろ出ていることは実現できないのではないか。もっと橋本らしい橋本スタイルについて具体的に考えていければと思

います。

(委員) 橋本市は近隣から住みやすいというイメージある。高野口地域の織物工場が廃業した跡地に住宅のミニ開発が多くでき、価格も安いので売れているが、住宅事業以外でも使えるよう転用可能なストックである空き家等を活用すれば、もっと違う用途で生まれ変わるのではないかと考える。市場に公開することが必要と考える。それから働く場所については一定の就職先はあると思う。公共投資においては市が発注する公共事業の市内業者への発注歩合は市町村によって差があると思う。市内の業者を育成するためにも、できるだけ市内業者への発注に比重をおいていただきたい。また、以前委員さんの中で、他の市町村でやっていることだが、市内の住宅を市内の業者がリフォームすると補助金出してところがあると聞いたので、橋本市でも実現に向けやっていただけたら、空き家の活用や市内業者の仕事にも繋がるので良いのではないかと。最後に観光について、橋本市には目玉になるような観光資源はないが、周辺には高野山や九度山の真田幸村など集客力のある観光資源があるので、橋本市を通過していく人を留められるような宿泊施設の充実を考えるほうが、新たな観光資源の発掘よりも効果があると思います。

(委員) 高野口の前田邸みたいな文化要素のある建物は他にもあると思います。例えばカフェにして地元のお菓子など食べてもらうことや、固定化するのではなく色々なイベントを開催できるようなフリースペースとして貸し出し、地元も巻き込む。例えば、着物を着て飲みに行く、提灯を用意するなど既存の物をうまく活用し、新しい物を建てるのではなく、管理に困っている方もいるかと思うので、既存の建物にサービスを付加するなど活用することで新しい事業に発展させていくことが重要であると思います。

(委員) 副会長のお話しであった橋本市としての特徴を出したほうが良いのではとあったが、同じ意見として橋本というまちは、健康リゾート「ウエルネス」心も体も健康でいきいき生活することの意味だが、ウエルネス橋本を目指していけるのではないかと。橋本は、まち機能、交通機関、住環境、病院等もしっかりしており、少し足を伸ばせば自然も豊かである。それらを踏まえウエルネスをキーワードに産業や観光など相乗効果を出せていけるような仕組みがあればと思います。検討していただければと思います。

(会 長) ウェルネスという言葉が出ましたが、統計的にデータを分析しており、国民健康保険の給付額は市民が日常歩く距離が多いほど少ないこともあり、歩くまちを推奨しています。また、橋本スタイルについて考えると委員の意見でも出ましたが、これは非常に良いことだと思います。鎌倉では鎌倉スタイルがあって、住宅都市だったのが訪れる人も増えたことにより産業が成長し、鎌倉スパゲティや鎌倉シャツなど、地元で愛されていた物が市民ニーズにより、ものを作り産業が活性化し外に展開できる力を持っていた良い例です。このようなスタイルの確立は重要である。

(委 員) 市では製造業を中心に企業誘致を進めていますので、誘致にあたっては、市内に工業高校があるということで誘致いただいることかと思いますが、生徒達も地元志向になっているので、今年度新たに誘致企業から求人もいただき、これからエントリーしてくのですが、希望者も多数います。製造業もこれから日本を支える産業のひとつでもありますので、橋本市で更に発展していただけたらと言うのが、工業高校の職員としての思いでもあります。それと、20 ページに大学や専門学校に進学したい者が 70%とありますが、橋本市、和歌山県では高等教育機関は他県と比べると少なく、市では皆無ですので、これらのほとんどが市外県外へ出て行く。少子化の時代において高等教育機関の誘致など難しいと思うが、例えば大学のサテライトなどあれば、若者が橋本に集まり地域のことを知ってもらうことで、市が発展していけるきっかけとなるのではないかと。就職のみならず、教育機関なども橋本市にあればと思っています。

(副会長) 和歌山大学には、岸和田と田辺市の 2 箇所のサテライトがあり、南北にはあるが東西にはサテライトは確かにありません。サテライトでは、学部教育ではなく、社会人や地域の方など大学で勉強したい方のニーズに応えるというのがサテライトの大きな目的であります。橋本市での設置については可能性がないわけではない。学のサテライトにこだわらなければ、市民と一緒に共同参画の場や勉強できる場を NPO や NGO であったり、集まれる場を提供することはできるかと思っています。SOHO 事業も過去に取り組みされた経緯はありますが、やり方や運営の方法が合わなかったのか分りませんが、需要はあると思うので、こういった勉強や交流の場を確保するのは別のやり方であるかもしれないと思います。

(事務局) 空き店舗や空き倉庫の活用については、空き家対策特別措置法が制定されたことも受け、来年度から空き家調査をおこなう予定をしています。また、調査と平行し、農地付きの空き家など希望者を募るなど、県の空き家バンク制度を活用し空き家、空き店舗等の情報提供をおこなっていく考えです。次に、建設業の地元企業への受注に関しては、市内業者の受注率は9割以上が市内事業者向けとなっています。今後は大きな事業もないので、ほとんどが地元事業者向けになると思います。リフォーム補助については、相当な財政性負担になるので、ターゲットを絞るなど、空き家対策と合わせ検討していきたいと思います。観光については、周辺地域の高野町、九度山町などを線で結び、そのルートの中に橋本市を組み込むことが必要と考えており、DMO、観光ツーリズムなど検討していきたい。高野口駅前通りについて、歴史や文化資源が多数ありブランド推進室を核として地元と連携し誘客を図っていききたいと考えており、橋本駅前も含め駅前の活性化を図る必要があります。大学のサテライトについては、戦略にも記載していますように社会人向けのサテライトの誘致する方向で検討していきます。

(副会長) どうやって、まちづくりにリノベーションを活かしていくかについては、和歌山市ではリノベスクールを3日か4日間程度のスケジュールで開催しており、空き家物件を選定した上で、地域住民、専門家と研究し、実務レベルのリノベーション計画を作成し、オーナーへ提案をしています。田辺市もリノベーション事業をやってみようかとの声も上がっています。このような手法で、市民参加型のまちづくり、リノベーションについて戦略の中にキーワードとして入れられるのであれば検討してみてください。

(委員) 企業誘致に反対意見をもっているわけではなく、橋本市の魅力のひとつである自然と合わせた企業誘致を行うとともに、双方のレベルを上げた魅力としていただきたい。

(会長) 和歌山県では果樹園芸が盛んですが、世界ではおもしろいことをやっている地域があるので紹介させていただきます。スペインのバレンシアというまちでは、街路樹にオレンジが植えてあり、とてもすばらしい光景となっています。ただし、鳥などが来るので食べてもあまりおいしくないものを植え、見た目や対策もきち

んとされています。橋本市でも橋本スタイルについて研究し、やっていただけたらと思います。以上をもちまして本日の議事については終了いたします。皆さん熱心な意見ありがとうございました。

(4)その他

(会 長) その他連絡事項について事務局よりお願いします。

(事務局) 2点の事務連絡をしたいと思います。意見交換で意見をいただきましたが、その他意見がございましたら事務局のほうにご連絡いただけますようお願いいたします。2点目ですが、次回、審議会の日程のご案内をさせていただきます。第4回審議会の日程は、9月25日の金曜日、第5回審議会の日程は、10月22日の木曜日とし、いずれも同じ時間帯を予定していますので、どうぞよろしくお願い致します。

3. 閉会

(事務局) それでは、これもちまして第3回橋本創生総合戦略審議会を終了させていただきます。長時間どうもありがとうございました。